

素 顔 拝 見

20年



医歯学総合病院・講師
(矯正歯科診療室)

八 卷 正 樹

初めまして、5月1日付けで矯正歯科診療室の講師を拝命いたしました。

先日、思いがけず20年永年勤続表彰の式の呼び出しを受けました。助手以上で20年の勤続が表彰資格と思ってましたので、医員の期間が長かった私は、まさかもらえるとは思っていませんでした。授賞式には出席できませんでしたが、後で表彰状と記念品を頂きました。

写真のような立派な木箱に入れられた純銀の杯ですが、まあこの手のものは実際に使えるわけではないのでしまっただけです。

私は新潟大学歯学部16期生（1986年卒）で昨年は卒業20年の節目の年でもありました、第16期生は近くの学年の中では特に団結が良かったほうで歯学祭には多くの思い出があります。当然宴会好きも多く、クラス会は卒業10年までは毎年、今でも2年に一回は各地で開催してます。昨年は20周年ということで10年ぶりにクラスの記念文集も



発行しました。奇しくも、16期生のクラス担任であった小児歯科の野田教授が平成19年3月で退官され、これで16期生が学生の時に指導を受けた教授は一人もいなくなっていました。もちろんクラス会にも参加いただきましたが、当時の写真や秘密の成績のバラシもあり大いに盛り上がり、月日の流れをつくづく感じさせられました。

さて、歯科矯正学の道に入ってから20年経過しました、また取り巻く環境も大きく変革してきました。コンピュータの世界にムーアの法則というのがあります。これはコンピュータなどの集積回路は1年半から2年で二倍になるという予測で、ほぼ同じ位こなせる仕事量も増えるという予測である。つまり20年後なら1,024倍のスピードになるわけで、実際私の愛用のマックもこの20年でCPUのスピードだけなら8MHzからDual2.5GHzと変わってきた。確かに機械任せの部分ではそのくらいの変化は出ているかもしれないが、扱う情報量も同じくらい増えているので、感覚的にはせいぜい数倍かもしれない。新しいOSが出ると直ぐに飛びつく方であるが、がっかりすることもしばしばある。宣伝文句ほど快適になる訳もなく、むしろ以前より遅くなることもある。売る方は商売なのでしょうがモラルを疑いたくなることもある。

歯科矯正のマーケットも毎年、何かしら新しい・すばらしい・革新的と宣伝している製品が出ている。特にインターネットの発達で一般の人にも名前を売り込んで、歯科医に使わせようとしているメーカーもある。一般の方からの問い合わせで、「これこれと言う製品を使用してますか？」と聞かれることがある、どうしてそんなことを聞くのかと逆に聞いてみたら、ネットで見てよく治ると思ったぐらいの知識しかないのである、何か日本人のブランド志向や次々出ては消え去るダイエット食品ブームと似ているような気がする。

どのような矯正装置を使用しようとも、結局は

装置が勝手に歯を動かしてくれるのではないことは当たり前で、術者のフィロソフィーとテクニックが無ければ何を使っても治らない。

他科の方はあまりご存じないかもしれないが、当分野で使用しているの矯正のテクニックは日本でも最も伝統的な手法で、ある意味レガシーだとも言われます。車で言ったらマニュアルシフト車です。昨今の矯正治療もかなりの部分がある意味ではオートマチック化してしまいました。この変化を否定はしませんが、最もベーシックな部分が最近の矯正の教育でも、疎かにされているような気がします。

自分も最近、自家用車をオートマチック車からマニュアル車に変えました。確かに最近のオートマは性能もよく変速もスムーズで下手なマニュアル操作よりは速く走れるかもしれません。25年ぶりにマニュアルシフト車に戻り、車を操る楽しさ(車の原点)があることを思い出させてくれました。

*

私のこと



医歯学系・助教
(予防歯科学分野)

濃 野 要

予防歯科学分野の濃野です。誰?と思われる方も多いかと思いますが、予防歯科が5月6日に行っている新潟市高齢者調査にご協力いただいた方であればちょっとはお分かりいただけるかもしれません。会場中を走り回っている人間の中で一番重そうなアイツです。

生まれも育ちも新潟県で、上越の地に生を享け、小学生時代の多くを新潟市で過ごしました。その頃はまだ新潟市内に路面電車が走っており、現市役所があるところに県庁がありました。旭町キャンパス近くに住んでいましたが、幸いにしてむし歯も含めて病気には関係がなかったのでこの病院には縁がありませんでした。しかし、歯学部付近

は格好の遊び場で、古町にはちょっと早かったようですが、護国神社で相撲をとったり海浜公園で走り回ったりしていました。白山公園ではザリガニや亀を捕りつつ何回も池に落ち、あのおいしい水をおなか一杯いただいてすくすくと育って参りました。中学校・高校はまた上越に戻り、そして新潟大学歯学部入学を機に新潟市に帰ってきました。

歯学部時代は特に活発に活動することもなく、かといって引き籠もるでもなくそれなりの学生生活を送ってきました。新潟大学歯学部教育の集大成となる、そしてキツイキツイといわれ続けてきた総診実習も、ライターの先生方や同期に恵まれ楽しく過ごすことができました。そして、ポリクリの頃から予防歯科に興味がありお世話になっていたので、卒業を前に宮崎教授にお願いに上がり、幸いにして嫌な顔をされることはなく大学院生として入局しました。大学院修了後はそのまま(このときは嫌な顔をされていたかもしれませんが)予防歯科医局に居座り続け、平成18年8月1日付にて助手(助教)に採用され現在に至ります。

大学・病院の中でのことは横目で見ていただければお分かりになると思いますので、皆さんの目にあまり触れないところでの活動について少し紹介させていただきたいと思います。「住民参加型地域歯科保健」という言葉を聞いたり、目にされたりしたことはあるでしょうか?これは、住民(即ち患者様)が、自身で「考えて」「行動する」歯科保健ということで、NPO法人まちづくり学校と協働して「はーもにープロジェクト」と銘打って、これを実現するため活動しています。まちづくり学校がどんな団体かごく簡単に説明すると、「人と人をつなげて」まちづくりを実践している団体で、元気のなくなった町の活性化や有名なところでは万代橋の改修などで成果をあげています。ここでの「人」というのは、住民・企業・行政・その他様々ですが、全てそこにいる個人を対象とします。そして、こちらから話しをすることよりもお互いから意見を引き出すことを主とし、それを紡いでいくことでつながりを作っていきます。「はーもにープロジェクト」の活動では、住民の方が自身

で考えるための第一歩として住民と歯科をつなげる（つながり方を変える）ことを目指しながら、意見を引き出すコミュニケーションツールをはじめとするまちづくり学校の手法を学び、歯科医師の枠にとらわれないつながりを作っています。ここで得られたものを変わり行く歯学教育に貢献できればと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、みなさんの目に入る活動としていろいろな市民イベント（新潟食の陣など）に参加しています。これからも活動していきますので、どこかで見かけたときにはちょっとだけ立ち止まってみてください。

*

うちの娘はなんと読むの？



医歯学系・助教
(口腔生理学分野)

黒瀬雅之

平成18年度12月1日付けで口腔生理学分野の助手を拝命しました黒瀬雅之です。新潟という地に始めてやってきたのが、平成12年の12月でした。それから思うとかれこれ7年目になります。大阪生まれの大阪育ちの私にとって、新潟という地は豪雪で、雪の壁の中を車で走るイメージでしたが、実際は雪も全くない新潟でした。始めて口腔生理学の門を叩いた際、山田教授と山村准教授（当時は助手）の満面の笑顔が印象的で、この研究室で大学院生活を過ごそうと即決した記憶があります。大学院生活を過ごしていく過程で、様々なことがありましたが、総じて言えることとしては「環境に恵まれた」ということです。色んな局面で山田・山村両先生や退官された真貝先生、当時は口腔生理学の助手であった井上先生、技術専門職員の高橋・平野さんに助けて頂き、支えられながら満足のいく大学院生活を過ごせました。学生に指導しなければいけない立場になった現在において

も、出来る限り「環境に恵まれた」と思わせてあげられるような自分でいなければと考える今日この頃です。

硬い話はこの辺にしておきます。最近の近況としては、やっぱり昨年10月31日に娘を授かったことが一大イベントでした。ちょうど、当日大学で仕事中に妻から電話を貰い、即帰宅するように言われ、そのまま大学病院に連れて行きました。ただ、某先生から結構かかるから……と悪しき情報を頂いたばかりに、分娩中の妻には内緒で、病院の待合室から抜け出し、お風呂に入ろうと車で自宅に向かいました。その時、携帯の画面にあるはずがない（自分ではそう思っていた）妻の名前が表示され、「なんかあったんか？」と緊張して着信ボタンを押した所、「なにしてんの？ もう産まれてるで」と、妻の怒りの声。そのまま病院に急行したのは言うまでもありません。バラエティ番組の映像に例えると、怒りマークのつきそうな妻の待ちかまえる分娩室で、感動の対面を果たしました。このようなことがありながら、無事に授かったのが私の愛娘「瑶音：たまね」です。「どんな漢字なんですか？」と聞かれてもなかなか適切な説明が出来ませんが、「瑶」という字と画数で決めました。ちょうど、この原稿を書いている時期は8ヶ月くらいになりますが、ようやく今までの後方へのハイハイから前方に動き出したくらいです。ただ、日々出来ることが増えてきます。きっと、大脳皮質内でシナプスが着々と接続されているのでしょう。しかし、困った問題が一つ出ています。これがうちの瑶音は愛想が悪いようです。先日、うちの両親が新潟に来たのですが、同じ遺伝子を持っているはずの祖父・祖母に対してもちっとも笑顔を出さず、泣いてばかりでした。まあ、うちのイケメン大学院生に対して号泣してくれたのは、危険を察知したのかと感心しておりました。子供に対しては色んな夢や欲が出てきますが、何より元気に笑顔が絶えない女の子に育てることが一番です。学内で見かけられたら、あまり愛想しないかもしれませんが、声をかけてあげてください。

日々、自分がこうやって仕事をやれるのも、理解してくれた妻や両親、そして日々支援と指導を

してくださる山田教授をはじめとする教室員の皆さんのお陰であると思います。また、家事と育児に疲れる妻をサポート出来ていると決して言えない私ですが、文句も言わずに支えてくれる妻には非常に感謝しております。まだまだ、若輩ですが、今後とも宜しくご指導お願いします。

＊

introduction



医歯学系・助教
(口腔介護支援学講座)

柴田 佐都子

今年度、医歯学総合病院 診療支援部 歯科衛生部門から、歯学部口腔生命福祉学科へ異動になりました。「はじめまして」の挨拶が必要な方のほうが少ないくらい（と思っているのは、私だけでしょうか？）の勤務年数になり、6月には永年勤続の表彰をいただきました。素顔になるかわかりませんが、苦手な文章を綴っていきます。

新潟生まれの新潟育ち、新卒で当時の歯学部附属病院に採用となりました。新潟以外で生活したことはなく、大学病院以外の勤務経験もないので良くも悪くも箱入りです。

これといった特技などはありませんが、体を動かすことが好きなので子どもの相手程度に動いているつもりです。

臨床経験としては、最初に保存科（現歯の診療室・歯周病診療室）に配属となり、勤務年数の約4分の3を過ごしました。後に、総合診療部（5年2ヶ月）、加齢歯科診療室（4ヶ月）と摂食・嚥下リハビリ室（1年3ヶ月）の3つの診療科を経験させていただきました。これまでの業務は、診療室で看護師の方々と混在することが大半でした。日常業務にとどまらず、勉強会や研究などの

活動も参加させていただきました。看護部は組織も大きく、学問体系も整っており、これらの経験は私の財産となっています。また、他職種連携ということでは、総合リハビリテーションセンターの療法士の方々の業務を垣間見させていただきました。リハビリの依頼を受け、機能の評価を行い、訓練計画の立案、訓練、評価、SOAPによるカルテ記載、カンファレンス……などなど口腔機能向上に係わる歯科衛生士として、学ぶべき点が多いと実感しました。環境は違っても専門職として必要なことは、学び続けたいと思います。そしてこれからも、他部門と連携しながら専門性を生かしていくにはどうすべきか、模索し続けたいと思います。

このように病院勤務をするかたわら、細々と学生生活を送ってまいりました。年齢が上がってくると何かと大変なことが多く、日常生活との両立は無理（特に家事がおろそかになりがち）ですが、マイペースでやってきました。久しぶりの学生生活は、多忙な中でも緊張感とメリハリがありました。そして平成16年度からは、社会人大学院生として口腔生理学教室の山田教授の下、摂食・嚥下機能回復部の大瀧先生のお世話になっております。摂食・嚥下リハビリテーション学は、学生時代の教育にはなかった分野ですが、歯科衛生士も活躍できる分野だと思います。たどたどしくも、地道に学んでいきたいと思っています。

口腔生命福祉学科に異動してからは、主にお口の健康室を担当しています。不慣れな教員生活がスタートして、5月病を実感する間もなく夏が来てしまいました。諸先生方を後方から追いかけ、距離が開かないよう必死に走り続けている状況かもしれません。これからは、新しい時代を担う口腔生命福祉学科の教育に係わる重責を感じながら、卒業生が社会の各分野で活躍できるよう、力を尽くしていきたいと思っています。最後に、右も左もわからぬ新米に親切に指導して下さる先生方と日々協力してくれる家族に感謝しつつ、項を閉じさせていただきます。